

令和5年度

新開小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎基本の定着とそれを活用し、表現する力の育成
- 主体的・対話的で深い学びの実践
- 学校と家庭との連携による家庭学習や読書習慣の確立

学力向上検討委員会構成

- | | |
|---------|-------------------------------------------------------|
| 学力向上推進員 | 委員 |
| 川口 紋乃 | 校長: 菊本佳孝, 教頭: 鶴本正道, 教務主任: 篠原美樹
研修・国語主任(4年担任): 川口紋乃 |

校長

菊本佳孝

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組み、課題解決に向けて努力することができる。 ●基礎的・基本的な内容や身に付けた知識を、他の学習や生活の場面において、関連付けたり活用したりする力に課題がある。	・漢字や計算の力を確実に身に付けている。(テストで習得率80%以上児童が8割を超える。) ・発達段階に合わせた話の聞き方ができる。 ・学習して習得した知識を、他の単元や学習の場面で関連付けたり、活用したりすることができる。	・朝の活動や家庭学習を利用して、ミニテストや視写等を行う。 ・ICT機器等を活用した学習活動を設定し、児童が身につけた知識を活用する喜びや達成感を味わえるようにする。 ・自分自身と関連付くもので興味を持ち、集中が続くよう課題意識を持たせる。	習得できていない漢字やローマ字、計算については、計算カードや小テストで繰り返し練習するだけでなく、活用する場を工夫する。	・計算カードや漢字テストを活用して繰り返し学習に取り組ませたことで漢字・計算は多くの児童が80%以上習得することができている。課題点は、中・高学年の計算のケアレスミスや割合の意味理解である。	・日記やあわスタワークシート等を活用し漢字を使う機会を増やす。 ・学習に臨む準備を整える。 ・話す前に「〇つ話す」と前置きをして話をし、最後に話の内容を確かめるようにする。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味のあることに関しては、自分の思いや考えを伝えたり友達の意見を聞いたりして、意欲的に取り組める児童が多い。 ●進んで読書をする習慣が身に付いていない児童が多く、全体的に読書量が少ない。自分の考えを持ち、それを読み書きで言語化することが苦手な児童がいる。また、課題解決的な学習活動に対して受け身になる児童がいる。児童自身が課題解決の方法を互いに話し合って学び合い、深めるまでには至っていない。	・課題解決に主体的に取り組み、考えを持ったり、友達と話し合ったりしながら学習を深めることができる。 ・新しく学んだことや友達の考えを活かして思考・表現することができる。 ・発達段階に応じて、根拠を明らかにして、自分の考えを適切に表現できる。 ・課題や目的に応じて、タブレット端末を効果的に活用し、情報収集したり表現したりできる。 ・自ら進んで読書に取り組むことができる。 ・一週間に1冊以上読書ができる。	・既習内容と同じテーマや作家等の本を並行読書したり、子供新聞を読んだりする活動を取り入れる。 ・子供新聞や市立図書館、週末読書を活用して読書の幅を広げ、得た知識や語彙を活用する機会を増やす。(日記、短文作り、新聞作り等) ・ICT機器やホワイトボード、付箋等を活用し、個々の考えを表現しやすくし、個別最適な学びを支援する。 ・話し合い活動や道徳で、タブレットにディベートの立場枠や心情メーターを用意して自分の考えを可視化させる。 ・ペア読書を取り入れ、様々な本にふれることができるようにする。	・タブレットを学習過程の記録(思考、実験の様子)に活用し、いつでもどこでも何度でも、個々で学習を深められる材料を残していく。(欠席児にも対応) ・子ども新聞の記事に対する自分の考えを伝える活動や、自分の好きな本を紹介し合う活動を取り入れる。	・めあてを持たせてグループ活動やペア活動に取り組ませることで、積極的な思考や発言が見られた。自分の考えを「〇〇さんに付け足して～、同じで～」のような言い方で伝えられたり、理由まで説明したりすることもできるようになってきた。 ・タブレットを活用したことで写真や文章で自分の考えを示すことができる児童が増えた。 ・子ども新聞を活用したことで、文章に対する感想を書く力や、文字を書くスピードや丁寧さにも繋がった。	・学校全体で読書の時間を週に何度か設定したり、各学級でおすすめの本リストを作成したりする。 ・ブックカードを活用したり週末読書をさせたりして読書量を増やす。 ・話形を提示して発表や話し合いの練習をさせる。 ・テーマ日記や新聞記事に対する感想を書く活動を取り入れる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組み、宿題もほとんどの児童が毎日提出できる。根気強く学習に取り組んでいる。 ●自己表現が苦手であったり自分の考えに自信が持てなかったりして、学習態度が受動的な児童がいる。また、生活習慣の乱れにより集中が途切れる児童もいる。	・「自ら学ぶ 進んであいさつ いきいき運動 ピカピカお掃除」ができる。 ・学習状況や生活を振り返り、自らの頑張りやよさ、今後の課題を自覚することができる。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、めあてを持って読書や家庭学習に取り組むことができる。 ・子供同士や外部人材との関わりを通して、自分と異なる考え方や新たなものの見方を取り入れ活用できる。	・教室の入り口にあいさつの言葉を掲示する。 ・話し合いや他者と関わる活動を効果的に取り入れ、児童の主体性を育む授業改善に取り組む。 ・個々の目標に合った自主学習の内容や仕方を奨励し、自主学習ノートを紹介したり、振り返りを丁寧にしたりしてそれぞれのよさや能力の高まりを認めて褒める。 ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習チャレンジシート(年2回、読書項目も入れる)」を活用して、保護者と連携して学習しやすい環境作り等の支援を行う。	・「家庭学習の手引き」の内容を示したり、「家庭学習チャレンジシート」に取り組ませ、結果から見えてきた成果や課題を知らせたりして、家庭と連携して、より一層の啓発を行う。(特に読書・自主学習)	・委員会の児童が中心になり、学校全体であいさつ運動に取り組んだことで、ほとんどの児童が自ら元気な声であいさつをすることができるようになった。 ・宿題はほとんどの児童がきちんとやり遂げることが出来ているが、自習勉強への取り組み具合には差が付く結果となった。 ・掃除に真面目に取り組んでいる児童がほとんどではあるが、私語をしている児童も多い。	・次年度も、懇談前にチャレンジシートを活用する。(チャレンジシートの項目の改良) ・定期的に家庭学習の手引きを提示し、活用する機会を増やす。 ・音楽をかけるなど工夫し、素早く黙って掃除ができるように指導する。

令和5年度 学力向上ロードマップ


